

Den Sidste Brev fra Danmark

-The Last Letter from Denmark-

あっという間に最後のニュースレター。あと2か月したら自分が日本にいることがまだ信じられません。「やっと慣れてきた」そんな感じです。また来たい！デンマーク。

“A BIG FAMILY” -フリースクールでのボランティア-

ICYEに派遣を申し込んだ当初、私は派遣後半の数か月を自分の専門分野である建築関係のお仕事に挑戦してみたいと考えていました。でも、こっちに来て半年生活してみて、少し自分で探してみたんですが、何せ小さな町、いい職場には出会えませんでした。でも今はホストとも何度もこの話をして考えが変わり、フリースクールを最後まで続けるのがベストだと思っています。

初めて来たときは、全く言葉がしゃべれなかったのが苦労しましたが、今は子供たちともある程度はコミュニケーションが取れるようになってきました。子どもたちも私が来る曜日は何ができるかを知っているので、朝学校に行くと「まいー！おはよー！あやとりしよー。」「まいー。うさぎ作ってー（折り紙）」「縄まわしてー。（縄とび）」と声をかけてくれます。最近はずっと天気もいいので一日中外で過ごすことも多く、帰りの自転車はへとへとなことも何度か。でも、とってもうれしい疲労感です（^◇^）



3月頃に0年生（年長さん）のお手伝いに入るようになってから、とっても楽しくなりました。0年生は、私が理解してるかどうかはお構いなしにガンガンデンマーク語で話してくれます。「今日はずっとロビン組にいる？」「今日は私のとなりに座って！」「散歩の相手して！（手をつなぐ）」と大歓迎♪「この絵本読んで！」は大変^_^；彼らに発音を直されます（笑）。でも、先生からの指示を待つだけだった11月と比べ



たら楽しくてしょうがない毎日です。

この学校では各学年に修学旅行（お泊まり保育）があり、4年生はアンデルセンの町オーデンセに4泊するために今調べ物をしています。乗り換え案内で電車の予約をすることから、何日目どこに行くか、何を食べるかまで子どもが決めます。さすが民主主義の国！と感心しました。

私は来週0年生のお泊まり保育についていきます。サマーハウスを借り、先生と子供たちだけで3泊。寝袋で雑魚寝です。自分が保育園だった時のお泊まり保育を思い出し、わくわくしています。



同じ仕事を続けることにして良かったと思うもう一つの理由は、先生たちからも必要とされるようになってきたことです。こちらでは夏に進級するので、学年最後のいろいろな行事に参加させてもらえるのもとってもうれしく思っています。最後まで存分に楽しみたいと思っています。1学年18人、0～9年生と約200人の小さな学校ですが、ほぼ先生を含むほぼ全員が顔見知りで気軽に「Hej Mai!」と廊下で声を掛け合い、ハグをする、

“大きな家族”だと感じます。少しでも家族の一員になれたかな???

春 -人々が陽気に外に出る季節-

前回のニュースレターとの大きな違いは季節です！長くて暗くて寒い冬が終わり、春が来ました～！イェーイ、(^o^)/ 話には聞いていたけど、こうも人が陽気になるものかとびっくりしています。最初の数日は調子に乗って外に出て頭痛を起こしました。身体がまだ日光に慣れていないそうです。自分自身も冬仕様の身体になっていたんだと実感。最近、庭で読書をしたりお茶をしたりしています。BBQも盛んに行われるみたいです。我が家はまだグリルが掃除できてない！花が咲き、小鳥が鳴き、牛と馬がぞろぞろと出てきています。

私が来た11月頃、同じ町に住む派遣生がホームシックになっていたことを思い出しました。彼女たちは8月に来て夏の素敵な季節を経験しているから、冬がつらく感じたそうです。夏を知らない私は、るんるん♪とデンマークに来て、周りの派遣生のテンションの低さががっかりしました。でも、私もこの季節を知っていたらと思うと……。それぐらい素敵な季節です。



ラストキャンプ --一生の友達--

5月7～10日に Dansk ICYE のラストキャンプがありました。お互いに寄せ書きを書いたり、来年の派遣生にビデオレターを作ったり、楽しく過ごしました。寄せ書きを最後にもらって、それぞれ読み、その後一人一人とお別れのハグをしたときは、これで最後なんだと急に実感し、さみしくなりましたが、世界中に訪ねてみたい場所ができました。日本にも来てほしいな。



同じ境遇で1年間過ごした仲間は、本当に大切なものになりました。特に仲良くしてくれた3人とは、お互いつたない英語とデンマーク語を駆使し、文法も単語もごちゃまぜでしゃべります。それでもずっとおなかを抱えて笑えるんです。派遣生の中の英語がネイティブの子とはここまで仲良くなれませんでした。“同じ境遇”であることがこんなに人と人をつなげるんだと驚きました。彼女たち3人は私の一生の友達になりそうです。

トラベルマンズ

トラベルマンズは、お金もかかるし、私は9か月しか滞在しないので、ギリギリまでデンマークでの生活を楽しみたかったのもあり、最後に2週間かおるちゃん（UK 派遣生）と北欧（オスロー、ストックホルム、タリン（エストニア）ーリーガ（ラトビア））を周遊することにしました。

ラストキャンプでも、いろんな人から「何でパリやローマじゃなくて、北欧に行くの？しかもオスロはめっちゃ物価高いよ！」と言われましたが、私にもなぜこうしたいのかよくわかりません。でも、パリやローマは人生の中でまた行くチャンスがありそうだと思うし、あまり魅力を感じなかったんです。せっかくデンマークに興味を持ってこうして来てるので、近所の国に行ってみたかったことと、バルトの国は、かおるちゃんがエストニアに、私がラトビアに友達がいなければ、たぶん一生訪問してなかったかもしれません。今はいかに節約して満喫するかを二人で夜な夜なチャットしています。楽しみ♪

家族の訪問

3月のあたりに両親がコペンハーゲンに来ていました。私もボランティアの休みを取って一緒に過ごすことになりました。でも、電車で5時間かかる私の町に来るには滞在時間が短すぎるということであきらめました。ホストもものすごく残念がってくれました。

そして、いざコペンで両親と再会し夜のお酒の席のノリで「グレーノに行こう！」と決まり、その場でホストに電話し、急きょ2日後のたった4時間の訪問が叶いました！！朝6時に起きてコペンを出発し、夜の11時にコペンに戻るというハードスケジュール。それでも電車の中で田舎らしい風景やかやぶき屋根を見つけては写真を撮りまくる父親。来てもらってほんと良かった。そしてホストも急なお願いにも関わらず、フロコストと呼ばれる立派なランチ（3皿＋デザート）を作ってくれました。派遣生にとって本当の

両親とホストが対面するほどうれしいことはありません。母親同士が「受け入れてくれてありがとう。これからもよろしく。」とあいさつを交わしたときは感動しました。

帰国後の私

ラストキャンプでは、「帰国時のカルチャーショックとして考えられることをあげる」というプログラムがありました。私も他の派遣生も「あるわけない!」と思っていたんですが、プログラムを通していろいろな発見がありました。中南米のみんなの課題は「10時と言われれば10時に集合する」自分になってしまったことを自覚し、帰国後友達が遅刻した時に怒らずにいられるかが課題だそうです(笑)

私と韓国の子は共通していて、デンマークでの公私をはっきり区別した生活リズムから母国のせわしない生活に自分が慣れることができるかが課題です。私は大学院に戻り、彼女は帰国後就職活動です。

ただ、私は日本に帰ったから日本の生活に合わせるのではなく、ここでの9ヶ月の生活で感じたことを日本でも実践してみたいと思っています。例えば、(前回のニュースレターにも書きましたが)デンマーク人の何かをする時の集中力はものすごいものがあります。そして、リラックスするときはおもっきりリラックスする。このメリハリが作業効率をあげていると思います。これは日本でも見習うことができると思います。そして、みんな趣味が多彩です。個人の時間を存分に楽しんでいることも見習うべき部分だなと思っています。

さて、どの程度実践できるかはやってみないとわかりません。帰ったとたんにもた日本感覚に戻るかもしれません。でも、週末にパンを焼くぐらいはしたいな～。

ICYEに参加して

私がICYEに申し込んだのが昨年3月、7ヶ月後の10月にはデンマークに来て、そしてもうすぐ7か月がたとうとしています。この1年は、私にとってものすごく変化の激しい年でした。何年も憧れてきた国で生活し、さらに好きになり、初めて語学を勉強し、毎日格闘し、デンマークと日本の文化の違いはもちろん、他の派遣生と私の価値観の違いにもたくさん驚きました。そして、もっともっといろんな世界を知りたいと思うようになりました。この経験がどのように私に影響を与えるのか、自分でも楽しみです。

そして、最後になりましたが、事務的なことからメンタルなことまでいつもいつもサポートして下さった宇梶さん、お世話になりました。ありがとう!!!次年度はデンマークから来る方がいるそうなので、できる限りいろいろお手伝いしたいと思います。そしていつか私が家庭を持ったら・・・、派遣生を受け入れてみたいという夢ができました^^その時はよろしく～。

では、帰国してみなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

恵みの雨の降るデンマークの日曜日より